

ほっぺん

200 祝! 200回



今月の表紙

春への足音を感じる～梅の花～

1月29日に鹿児島気象台から梅の開花が発表されました。

梅の花の可憐な姿や、飛び交うミツバチの様子に近づく春を感じてしまい、思わずカメラのシャッターを押しました♪

薩摩郷句

兼題『芽』

くすれ亭主花芽すい切つ夫婦喧嘩

(唱) 毎朝楽しみ 見いこったこち

満石江吟

新芽時期病室ち並るだ血の病

(唱) お前様もなち 症状どん聞つ

北村虎王

芽が出たら郷土が沸ちよい大相撲

(唱) 我が事の如つ 村中が弾ん

西ノ園ひらり

俺い似たでぐらしか長男は芽が出らじ

(唱) 口下手な父て 息子は輪を掛けつ

植村昭子

マー君も芽が出た直きメジャー行つ

(唱) 素入ればつかい 歯痒いか日本

二見愚楽満

大崎短歌会

兼題『静』

子らの声久しく聞かぬわが里の静かな夕空チャイム流るる

中崎ハナエ

もの静かなひとへの憧れ抱きつつ遂に成り得ぬままの一生ぞ

原田葉子

山鳩の住める静かなわが庭に夫と初日の射し来るを待つ

長重悦子

「静かに」とう制止の言葉も聞きとれぬ怒号飛び交う国会論争

坂元つる子

大みそか紅白終えて静かなる一人の部屋に除夜の鐘聴く

内田ちどり

大崎俳句会

松葉蟹両手廣げて客を待つ

坂元つる子

鳥小屋に通ひ来る二羽寒雀

宮脇洋子

袖口の濡れそぼちたる若菜摘み

内村美恵子

夫の忌や詞の窓辺笹鳴けり

折田スズ

元日や番雀の珠の声

宮下のし

薄氷の緋鯉ほのかに動きけり

溝口稔

春寒し小石如きにつまづきて

益倉睦美

人権啓発シリーズ

人権ってなんでしょう。

『人権』は歴史のみと、西欧で生まれた考え方です。人は1人ひとりかけがえのない尊いものであるということから、いかなる場合にも踏みにじったり、無視したりしてはならないものを人権と考えたのです。人権は、すべての人がいつでも・どこでも・同じように持っている権利で、平等にそして無条件に尊重されなければなりません。人権・性別・出自・信条・政治的意見などの理由による差別は許されません。